



カテゴリー

表題	作成日
文化コラム	2007/10/16
ゴールデン・リレーエッセイ	2007/10/16
国際学会関連報告	2003/05/04
学術コラム	2019/03/04
アジア・ゲルマニスト会議関連	2007/10/16
音楽批評	2007/10/13
映画批評	2007/10/12
演劇批評	2007/10/13
語学関連コラム	2007/10/16
文学コラム	2007/10/16
外国語教育コラム	2011/09/15
春季研究発表会報告	2014/08/05
理事のリレーエッセイ	2019/03/04
秋季研究発表会報告	2019/03/04

[TOPページへ](#)



文化コラム

表題	作成日
ドイツ文化ゼミナール Online-Alternative II に参加して (T. Eki) [J]	2022/04/25
ヨーゼフ・ボイス生誕100周年をきっかけに訪れた 「ボイス+パレルモ」展 (H. Arai) [J]	2021/08/25
蓼科文化ゼミナール「オンライン代替企画」に参加して (A. Takata) [J]	2021/05/28
著書の出版と岩崎奨学金 (D. Baba) [J]	2021/04/07
ドイツ語教員としてブログで発信すること (T. Kumagai) [J]	2020/05/22
上智大学卒業生の勉強会「青い花」の歩み (M. Akasaka) [J]	2020/02/13
第61回ドイツ文化ゼミナールに参加して (C. Tanimoto) [J]	2019/04/06
第60回ドイツ文化ゼミナールに参加して (T. Eki) [J]	2018/07/29
学会の楽しみ (H. Kinefuchi) [J]	2018/06/09
第59回ドイツ文化ゼミナールに参加して (T. Kasai) [J]	2017/05/27
ザクセン=アンハルト州ハレ市の教育現場における難民受入れ —多文化社会ドイツの一断面— (K. Fujita) [J]	2017/05/14
むしろ耕作を習うがいい — ヘルダーリンと3.11 — (S. Tanaka) [J]	2017/03/22
ユダヤ音楽の現在を一瞥する (H. Kuroda) [J]	2017/02/15
原子力と里地 — ASLE-Japan／文学・環境学会に参加して (K. Isozaki) [J]	2016/10/01
ドイツの音楽を研究して： バロック音楽研究会 (M. Teramoto) [J]	2016/06/29
与那国島とドイツの意外な関係をめぐって (T. Tsuji) [J]	2015/11/21

[TOPページへ](#)

[カテゴリへ](#)

50の坂を越して、8月の砲声を遥かに聞く — マックス・ヴェーバー生誕150年と第一次世界大戦開戦 100年に寄せて (N. Yamamuro) [J]	2014/11/11
「ゲルマニスティネンの会」は元気です — 近年の活動報告 — (H. Kitahara) [J]	2014/08/02
第56回ドイツ文化ゼミナールに参加して (M. Miyake) [J]	2014/07/07
Kurtzweylige Legenda (E. Scheiffele) [D]	2013/05/11
制服を脱いだ森林太郎 — 鷗外のミュンヘン — (Y. Birumachi) [J]	2012/08/19
こんなところでも人は住んでいる、こんなときでも授業はある — 2011年3月11日後の東北の私的断片 (H. Matsuzaki) [J]	2011/12/06
イタリア庭園とドイツ・ロマン派文学 (S. Kuwahara) [J]	2011/10/24
青息吐息の国際交流 ～福井県日独友好協定10周年記念式典の顛末～ (S. Murata) [J]	2009/12/25
ドイツ「基本法」(Grundgesetz)における 民主主義擁のための闘争的性格 (H. Yanagihara) [J]	2009/11/04
シラーの『群盗』の日本に於ける或る受容 (O. Sakai) [J]	2007/12/10
回想ドイツW杯06：“友人”を作った国 (M. Kumekawa) [J]	2007/03/10
「一年の計」 (R. Maeda) [J]	2006/01/09

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)



ゴールデン・リレーエッセイ

表題	作成日
フリードリヒ・ヘッベル生誕記念の年によせて (Y. Suga) [J]	2013/10/07
外国人名カタカナ書き異聞 (T. Yoshinori) [J]	2011/09/16
テキストデータベースと私 (T. Higuchi) [J]	2008/03/24
ヴァーテノー先生を讃えて (T. Takatsuji) [J]	2007/12/22
認識の色メガネ? (K. Hosaka) [J]	2007/11/11
「参加せんと分からん」 (K. Ikeda) [J]	2007/10/14
情報の洪水 (M. Matsumoto)[J]	2007/09/29
ラジオドイツ語講座入門編を聞いてくださった方々へ (T. Seino) [J]	2007/09/28
関楠生の高橋健二研究のこと (Y. Koshina) [J]	2007/09/20
「ゴールデン・リレーエッセイ」たちあげの弁 (M. Tanigawa) [J]	2007/08/24

[TOPページへ](#)

[カテゴリへ](#)



国際学会関連報告

表題	作成日
会議派、それとも書齋派？ (M. Watanabe) [J]	2007/10/28
国際日本学への貢献 (S. Itoda) [J]	2006/04/10
「理事のリレーエッセイ」について (M. Tanigawa) [J]	2005/10/07

[カテゴリへ](#)

[TOPページへ](#)



学術コラム

表題	作成日
彼岸過迄 — ドイツ文化ゼミナールのこと (K. Omiya) [J]	2009/06/08
正書法第34条付則1 (K. Narita) [J]	2008/11/12
「ゆるやかな」結合と「緊密な」結合 (Y. Wakisaka) [J]	2008/03/11
「千と千尋」のドイツ語 (A. Fujii) [J]	2008/03/13
北海道支部の近況 (S. Umetsu) [J]	2007/11/24
チュービンゲンで感じたこと (Y. Hosaka) [J]	2007/09/19
こらえるゲルマニスティク (A. Ogawa) [J]	2007/02/17
またもう一つの俘虜収容所演奏会 (M. Nishimura) [J]	2006/12/18
「ファウスト展」を見て (Y. Takahashi) [J]	2005/11/29

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)



アジア・ゲルマニスト会議関連

表題	作成日
アジア・ゲルマニスト会議（AGT）2019札幌大会に参加して (T. Shirai) [J]	2019/11/06
ソウルAGT（2016）に参加して (K. Hamazaki) [J]	2016/11/13
アジアゲルマニスト会議2012北京大会に参加して (S. Kido) [J]	2012/09/26
アジアゲルマニスト会議北京2012 (Y. Muroi) [J]	2012/09/25
“アジゲル”の複雑な味わい (M. Kumekawa) [J]	2008/11/12
2008年は金沢へ！ (M. Natori) [J]	2008/04/11
歳末 —— 贈物の季節に (R. Maeda) [J]	2007/12/18

[カテゴリへ](#)

[TOPページへ](#)



音楽批評

表題	作成日
オペラとドイツ・リートにおける音楽と言葉の関係を研究して (T. Inada) [J]	2017/06/25
オペラのなかの女性たち — モーツァルトとワーグナーを中心に— (S. Miyake) [J]	2012/04/13
『シューマンの指』を読んで (H. Sekiguchi) [J]	2010/09/20
狂言 オペラに出会う (M. Komiya) [J]	2009/09/03
日生劇場オペラ教室『魔笛』公演 (I. Takashima) [J]	2008/03/23
2005年バイロイト音楽祭の「トリスタンとイゾルデ」を観て (S. Sambe) [J]	2005/11/07
シュトックハウゼン — ヴェーベルン (T. Sunaga) [J]	2007/10/13

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)



映画批評

表題	作成日
最近のヒトラーとナチスの映画から (M. Iida) [J]	2018/05/23
ゼバスティアン・シッパー監督作品『ヴィクトリア』 について思うところ (Y. Iguchi) [J]	2016/08/21
『コーヒーをめぐる冒険』をめぐる連想の冒険 ードイツ映画戦後70年に寄せて (Y. Yamamoto) [J]	2015/04/09
故ハルン・ファロキ監督を偲んで (H. Arai) [J]	2014/11/10
「ドイツ映画祭2007」報告 (Y. Yamamoto) [J]	2007/08/28
ドイツ映画祭2007紹介 (M. Iida) [J]	2007/06/08
R・W・ファスビンダーへの長い旅 (T. Shibutani) [J]	2006/09/25
「ドイツ映画祭2006」報告 (Y. Yamamoto) [J]	2006/09/04
「ドイツ映画祭2006」 (M. Iida) [J]	2006/07/15
揺れる心 (M. Iida) [J]	2006/01/24
「ドイツ映画祭2005」報告 (R. Tamaru) [J]	2005/11/11

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)



演劇批評

表題	作成日
マックス・フリッシュ『自伝』1984年版の日本初演について (I. Terao) [J]	2022/11/13
ドイツ語圏演劇の魅力 - 増える翻訳上演とその背景 - (M. Niino) [J]	2018/11/19
政治的演劇の現在 (M. Harigai) [J]	2017/04/19
〈他者性〉に対して拓かれる - 東京演劇アンサンブル 『避暑に訪れた人びと』公演(2010.9)に参加して (S. Otsuka) [J]	2010/12/25
ドイツ演劇は楽しめるか? (H. Nemoto) [J]	2008/11/12
ドイツ座『エミーリア・ガロッティ』とルネ・ポレシュ… (M. Niino) [J]	2006/04/03
追悼の儀式 - マルターラー演出の『未来を予防する』 (E. Hirata) [J]	2006/01/30
うずめ劇場『レオンスとレーナ』東京公演 (K. Sanada) [J]	2005/11/24
シンメルプフェニヒ観劇記 (S. Otsuka) [J]	2005/10/06
この秋に来日する女性作家カトリン・レグラについて (N. Uematsu) [J]	2006/07/15
「ドイツ演劇研究会」 (I. Terao) [J]	2005/10/02

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)

[TOPページへ](#)

[カテゴリーへ](#)



語学関連コラム

表題	作成日
第49回語学ゼミナール・オンライン2021に参加して (H. Ikeda) [J]	2020/10/22
初の試み「語学ゼミナール・オンライン2020」について (T. Tsutsui) [J]	2020/09/29
第47回語学ゼミナールに参加して (A. Takahata) [J]	2019/11/06
第44回語学ゼミナールについて (M. Kang) [J]	2016/10/30
第43回語学ゼミナールに参加して (M. Sakurai) [J]	2015/11/13
二度目のミュンヘンの言語学の夏 (S. Tanaka / Y. Fujinawa) [D]	2015/09/19
ドイツ語論文執筆ワークショップ (M. Ide) [J]	2015/07/12
「京都ドイツ語学研究会」へのお誘い (Y. Nishimoto)[J]	2014/09/07
第19回ドイツ語教授法ゼミナールについて / Kolumne zum 19. DaF-Seminar in Hayama (N. Jahn) [J/D]	2014/04/21
第33回 春のインターユニ・ゼミナールに参加して (Y. Takahashi) [J]	2014/04/06
語学ゼミナールに参加して (A. Okabe, E. Kimura) [J]	2013/10/18
ドイツ・ポーランド国境におけるコミュニケーション / Kommunikation an der deutsch-polnischen Grenze (G. C. Kimura) [J/D]	2013/05/23
ペンシルベニアへドイツ語を求めて (J. Okamoto) [J]	2012/08/10
「ミュンヘンの夏2011」：ミュンヘン大学・言語学サマー コースおよびワークショップの報告. (S. Tanaka) [J]	2011/10/01
国際ドイツ語オリンピック・2010年ハンブルク大会報告 (Y. Tanizawa) [J]	2010/10/18
2009年・語学ゼミナールの思い出 (M. Takahashi, M. Nobukuni) [J]	2009/10/15

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)

語学ゼミナールの世界 (H. Miyashita) [J]	2009/05/01
国際ドイツ語オリンピックに参加して (F. Ogasawara) [J]	2008/11/12
「今年の語学ゼミナールも好評でした」 (Y. Takeuchi) [J]	2006/11/09

[TOPページへ](#)

[カテゴリーへ](#)



文学コラム

表題	作成日
春にして『テル』を想う(H. Honda) [J]	2022/04/10
クレメンス・J・ゼッツ『インディオ』訳本制作騒動記 (A. Inukai) [J]	2021/09/02
2020年夏、新しくなったヘルダーリン塔へ (H. Hayashi) [J]	2020/09/18
トーマス・ベルンハルトの哄笑 (Y. Iijima) [J]	2020/02/05
Wo sich die Germanist*innen zum Baden treffen – Bericht über das 28. Seminar zur österreichischen Gegenwartsliteratur (E. Havranek) [D]	2019/12/20
黒姫童話館と子安美知子先生 (M. Horiuchi) [J]	2019/06/06
『変身』初版本の表紙イラストのこと (T. Kawashima) [J]	2015/03/06
トーマス・マン没後60年によせて (M. Chida) [J]	2015/02/26
カネッティの贈りもの (H. Suto) [J]	2014/11/12
トーマス・マン研究会の人々 (S. Sakamoto) [J]	2014/10/14
トラークルの痕跡を訪ねて — 詩人の没後100年に際して (A. Nakamura) [J]	2014/09/09
アルノ・シュミット生誕100年に寄せて (A. Inukai) [J]	2014/07/22
第62回ドイツ現代文学ゼミナールに参加して (J. Kim) [J]	2014/05/20
モルゲンシュテルン没後百周年に寄せて (N. Miyauchi) [J]	2014/04/09
グリム年は続く —グリム童話刊行200年記念シンポジウム報告— (H. Ono) [J]	2013/05/25
Über Muße — Ein kulturgeschichtliches Aperçu 1) (M. Feldt) [D]	2013/03/23

[カテゴリへ](#)

[TOPページへ](#)

「老大尉は未だ退役せず」 — ゲルハルト・ハウプトマン生誕150周年に寄せて— (M. Suzuki) [J]	2013/01/12
日食とネイチャーライティング：文字の力について (K. Matsuoka) [J]	2012/07/29
第58回「ドイツ現代文学ゼミナール」に参加して (T. Okayama) [J]	2012/07/03
クライスト没後二百年に（コト）よせて (M. Manabe) [J]	2011/12/09
ゾイメという作家 (T. Hasegawa) [J]	2010/09/13
Großes Hebefestと幸運な訳書 (Y. Kinoshita) [J]	2010/08/31
中島敦の独乙語の時間 (N. Yamamuro) [J]	2009/11/21
Nevilleのこと (A. Fujimoto) [J]	2006/09/25
シラー没後二百年祭 (A. Aoki) [J]	2005/12/14
穏やかなセンセーション — シュティフター生誕200年 (K. Isozaki) [J]	2005/12/08
「私の好きな岩波文庫」と村上春樹 — Th.マンをめぐる (Y. Oguro) [J]	2005/12/04

[TOPページへ](#)

[カテゴリへ](#)

日本独文学会

JAPANISCHE GESELLSCHAFT FÜR GERMANISTIK

外国語教育コラム

表題	作成日
第26回ドイツ語教授法ゼミナール報告 (A. Kamei) [J]	2022/07/08
Bericht über das 26. DaF-Seminar (M. Schulze) [D]	2022/07/08
Kolumne zum 25. DaF-Seminar der JGG vom 10. bis 13. März 2021 (T. Weber) [D]	2021/04/08
DVD『関口知宏が行く ドイツ鉄道の旅』 ードイツ語授業への活用について (Y. Igarashi) [J]	2019/09/10
Bericht über das 24. DaF-Seminar (R. Kuklinski) [D]	2019/04/30
都立北園高校のドイツ語教育 (Y. Noto) [J]	2019/01/24
とある私立高校のドイツ語教育 (N. Ito) [J]	2018/11/06
Bericht über das 23. DaF-Seminar (E. Bachmaier) [D]	2018/07/05
第1回東アジアドイツ語教員会議の報告 (M. Muramoto) [J]	2017/09/15
Bericht über das 22. DaF-Seminar (N. Kanematsu) [D]	2017/07/19
「長い20世紀」とDaF (W. Baba) [J]	2016/09/17
Bericht über das 21. DaF-Seminar (E. Wölbling) [D]	2016/06/25
第16回韓国ドイツ語教育学会(KGDaF)国際シンポジウムに 参加して (F. Ogasawara) [J]	2015/10/18
「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」を終えて (T. Ohta) [J]	2015/10/01
Lernerautonomie und die Vermittlung und Erforschung von Lernstrategien (D. Beier-Taguchi) [D]	2015/09/03
ハノイ大学ドイツ語学科訪問記 (J. Kuriyama) [J]	2015/03/26
「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査 (教員・学習者 向け)」実施に寄せて (Y. Takaoka) [J]	2014/06/03
学習記録を通して見るドイツ語学習 (D. Iwasaki) [J]	2010/02/23

[TOPページへ](#)

[カテゴリへ](#)

ドイツ語教育の未来 — ある地方私立大学における解雇事件から (K. Hayashi) [J]	2008/12/21
単位数の削減と教育目標の明示 (M. Yasuoka) [J]	2006/05/11

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)



春季研究発表会報告

表題	作成日
2019年春季研究発表会を振り返って – 記憶と記録 (H. Takada) [J]	2019/10/13
2015年度春季研究発表会のこと (M. Katsura) [J]	2015/09/09
ウグイスとヒグラシのなくころ (M. Segawa) [J]	2014/08/05

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)



理事のリレーエッセイ

表題	作成日
道草のドイツ - Don DeLilloの“Zero K”など (K. Omiya) [J]	2016/07/16
「テレビでドイツ語」出演後記 (T. Yoshimitsu) [J]	2011/10/12
パーテルノステル (Y. Furusawa) [J]	2010/03/11
川村二郎さんのこと (M. Matsunaga) [J]	2009/03/01
NHKラジオ外国語講座新編成に寄せて (J. Matsuura) [J]	2008/03/29
学会60年 (J. Matsuura) [J]	2007/09/20
研究叢書刊行規程改定のこと (S. Koizumi) [J]	2007/06/30
ドイツからのお土産 (T. Kamio) [J]	2006/01/09
私のドイツ語事始 (Y. Muroi) [J]	2007/10/13
庶務理事のぼやき	2007/10/13

[カテゴリーへ](#)

[TOPページへ](#)

